

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成26年度第1回 第5分科会（経営、企画分野）
日時	平成26年10月20日（月） 午後1時30分～午後4時
場所	江南市役所 3階 第3委員会室
出席者	市民委員 太田 靖子、早瀬 裕子、福田 直樹、初山 光正、飯島 和代、奥村 忠、佐藤 晃
	市職員 坪内 俊宣、松本 朋彦、村瀬 正臣、栗本 浩一、石黒 稔通、古田 義幸、村田 いづみ、岩田 高志、大倉 由美子
傍聴者	なし
議題	1. 会議の公表及び公開について 2. 今年度のまちづくり会議について 3. 委員及び市職員の紹介 4. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について 5. 第2回の会議日程について
資料	資料1 江南市まちづくり会議委員名簿 資料2 会議の公表及び公開について 資料3 今年度のまちづくり会議について 資料4 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）

◆ 会議結果 ◆

1. 会議の公表及び公開について

- ・江南市市民参加条例が制定され、平成26年度から会議の開催にあたっては、開催の事前公表、会議の公開、会議録の公表が義務付けられたことについて、資料2に基づき、行政経営課主幹より説明がありました。

2. 今年度のまちづくり会議について

- ・まちづくり会議の目的、役割、今後のスケジュール等について、資料3に基づき、総務部長より説明がありました。

3. 委員の紹介

- ・4月の人事異動により変更のあった市職員の委員について、事務局より紹介がありました。

4. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について

〔柱1〕 地域協働の推進

- ・資料4に基づき、委員（地域協働課長）より説明がありました。

〔個別目標①〕 市民が地域社会の担い手になっている

- ・雨マークとなった指標が多いとの指摘があり、これに対して、浮かび上がった課題の改善につなげていきたい。指標名「アダプト制度の登録割合」については、右肩上がりにどんどん増えていく目標値の設定を、昨年度の計画見直しの際に、現実的な目標値に見直したとの説明がありました。見直し後の目標値も簡単に達成できる目標ではないが、最近では毎年100人ずつくらい増えていっており、そうした人たちが継続してやっていただければもっと広がっていくのではないかと説明がありました。

- ・雨マークとなった指標に対して、具体的にどのような対策を行うかが重要であるとの意見があり、今年度中にできることからすぐに取り組んでいきたいとの説明がありました。
- ・ボランティアへの参加について、60歳以上の方が多く、若い人の参加が少ないため、今までのボランティアの考え方だけでなく、事業型NPO支援講座などの開催をもっとPRしていけば、若い人にも参加してもらえないのではないかと意見がありました。また、大学生がボランティア活動に参加してくれることもあるが、一時的な参加にとどまり、継続してやってもらえるかどうか課題であるとの意見がありました。
- ・小学生、中学生に対するボランティアに対する教育はされているかとの質問があり、団体によっては地元の学校の校長先生にボランティアへの参加を直接お願いしている事例があるとの説明がありました。
- ・大学によっては、学生が地域活動に参加することによって単位が取得できる制度もあるとの意見がありました。
- ・学校教育において、「評価が高くなるからボランティアをやる」ことの是非についてはいろんな考え方があがるが、それがきっかけとなり喜びを感じたり、一度経験することで大人になってからの財産になることもあるとの意見があり、これに対して、若いうちからボランティアを体験することが大切であるという、この分科会での意見を教育委員会にも今後伝えていくとの説明がありました。
- ・30歳くらいの人たちにとっては、単発的なボランティアや、フリーな感覚でのボランティア意識はあるが、地域のコミュニティに帰属すると時間的な負担が大きいの意見がありました。
- ・雨マークの指標の中にも数値の計算上含まれていない隠れたプラスの面はたくさんあり、登録された団体でなくても企業の社員が会社の周りをきれいにしたり、土木・建設現場の周りについても向こう三軒両隣をきれいにするように取り組んでいる事例もあるとの意見がありました。
- ・アダプト活動をされる団体の方の中には、一生懸命きれいにした公共用物に対して愛着が沸きすぎてしまうことがあり、例えば、道路改良が行われると花壇がなくなってしまうため新しい花壇を作ってほしいという要望を出される事例など、善意で取り組むアダプト制度の趣旨から外れてしまわないように啓発していくことも必要であるとの意見がありました。
- ・学校、職場、老人クラブなどいろんな団体に対して、アダプトに積極的に参加してもらえよう声掛けして広げていっていただきたいとの意見がありました。

【柱2】 戦略的な行政経営の推進

- ・資料4に基づき、委員（秘書政策課長、行政経営課長）より説明がありました。

【個別目標①】 市役所の簡素化・効率化が図られ、市民ニーズに responding

- ・無料施設の有料化には反対ではないが、施設の利用者は高齢者が多く、あまりにも料金が高すぎると利用できなくなってしまうため、急激に上がることをしないよう常識的な範囲での料金設定にしてほしい。また、施設の利用者へアンケートを行い、時間単位での料金設定など、利用者の意見が反映されよう配慮してほしいとの意見がありました。
- ・グループ制が導入され、窓口で担当の職員が不在でも他の職員がきちんと対応してもらえるのはありがたいとの意見がありました。
- ・指標名「マネジメント・グループ制が適切に機能していると感じる組織の数」には、どこまでの組織が含まれるのかとの質問に対して、出先機関も含めた所管する課長へのヒアリングにより把握しているとの説明がありました。

〔個別目標②〕 計画的で健全な財政運営が行われている

- ・市長への手紙や各課へのメール照会が2件あったとの記載について、どのような内容であったか質問があり、総務省のウェブサイトに掲載されている江南市の決算統計資料のデータに関する問合せと、無料施設を有料化すべきとの意見の計2件であったとの説明がありました。
- ・市の財政状況は大丈夫かとの質問に対して、江南市の財政力指数は0.81であり、全国790ある市のうち190位のランキングに位置し、愛知県の中での順位は低いが、全国的にみると上位であるとの説明がありました。

〔個別目標③〕 職員自ら資質の向上を図り、政策形成とマネジメント能力をもった職員が育っている

- ・今後の展開方針に「職場風土づくりに努める」とあるように、職員のさまざまな意見を尊重できるような、風通しのよい職場環境を築いていただきたいとの説明がありました。これに対して、市役所が組織として機能するには、職員同士のコミュニケーションが大切であり、所属長である課長を中心に常日頃から面接や、朝礼・夕礼などの機会を通じて意見交換をして、情報を共有しながら組織が一丸となって進めていくような職場風土を醸成していきたいとの説明がありました。
- ・「目標管理」とは、個人単位か、グループ（組織）単位かとの質問に対して、個人については、人事考課制度を取り入れており、年度当初に所属長（課長）と面談し、指導や助言を受けながら職員個人の目標設定を行うとともに、組織については、部・課の経営方針などを策定して目標を管理し、両面から実施しているとの説明がありました。
- ・高い目標を掲げて挑戦した職員に対する給与面での反映はあるのかとの質問に対して、相応の成果を挙げた職員は人事考課で点数が高くなり、勤勉手当（ボーナス）の率で差を設けることにより、職員のモチベーションを高めていけるようにしているとの説明がありました。
- ・基本給への反映はされていないのかとの質問に対して、基本給は通常の定期昇給のほか、人事考課を昇格の際に活用しており、副主幹や課長などの役職に早く昇格することにより、反映されているとの説明がありました。
- ・昇格のための試験制度はあるのかとの質問に対して、職員に求められる能力は、学力だけでなく、市民の方とのコミュニケーション能力や調整能力なども必要であり、人事考課制度の中で総合的に判断するようにしているとの説明がありました。

〔柱3〕 公平かつ適正な課税・収納

- ・資料4に基づき、委員（税務課長、収納課長）より説明がありました。

〔個別目標①〕 市民は、公平かつ適正な課税がされていると感じている

- ・平成24年度と平成25年度の現年課税調定額を比較すると、7,000万円ほど増えているが、景気がよくなったことが原因かとの質問に対して、市税全体からみると1%に満たない額であり、これといった大きな要因はないが、景気による影響のほか、地方税の税制改正などによるものであるとの説明がありました。また、おもな増減理由としては、個人市民税は給与所得の増などにより4,100万円の増、法人市民税は法人実効税率の引き下げなどにより1億円の減、たばこ税は県から市への税源移譲などにより7,000万円の増などであるとの説明がありました。

〔個別目標②〕 公平かつ適正な税負担を感じ、自主的に納税を行っている

- ・昨年度のまちづくり会議において滞納金額の話題があったが、昨年度と比較して平成 25 年度の状況はどうかとの質問に対して、平成 25 年度は現年課税調定額 121 億 7,137 万円のうち、滞納額は 1 億 8,954 万円で、収納率は 98.4%という結果となり、これは、平成 24 年度の滞納額 2 億 1,185 万円よりも減少し、収入額は増えているとの説明がありました。
- ・税金は市役所の屋台骨を支える財源であり、しっかり税金を取ったうえで戦略的な政策を行うことが重要であり、滞納金額が大きくなることは問題であるとの意見がありました。
- ・税金を納める前段階として、いかに経済が活性化して生き生きとした町を作っていくかが重要であり、商売が繁盛すれば税金をたくさん納めていただけるのではないかとの意見がありました。
- ・今後の課題として、「滞納者への厳格な対応が重要である」との記載のとおり、税金が高いとか安いとかではなく、ほとんどの人が税金を払っている中で、一部の払っていない人によって不公平感を生んでいるのではないかとの意見がありました。
- ・具体的にどのような方法で滞納者から徴収するのかとの質問があり、これに対して、文書を出しても税金を納めていただけない場合は、銀行預金や給与の差押をして、財産のある滞納者からはしっかり徴収しており、昨年度は 429 件の差押を行い、7,000 万円ほどの収入があったとの説明がありました。しかしながら、払わない人から徴収することは非常に大変であり、担当職員のモチベーションが下がることのないよう滞納処分に当たっているとの説明がありました。

5. 第 2 回の会議日程について

- ・第 2 回の会議日程について、次のとおり決定しました。

＜第 2 回＞ 10 月 28 日（火）午後 6 時～

6. その他

- ・奥村分科会長、飯島副分科会長、地域協働課長に、12 月 24 日開催予定のまちづくり会議（全体会議）への出席のお願いが事務局からありました。